

Funehiki High School News vol.80

◆第64回卒業証書授与式が 挙行されました

3月1日(土)、第64回卒業証書授与式が厳かに挙行され、澄み渡る春空の下149人の卒業生が本校を巣立ち新たな門出を迎えました。



伊藤かなえさん

式では、卒業生代表の伊藤かなえさん(三春中出身)が「震災直後に入学した私たちも、多くの方々の支えのおかげで充実した高校生活を送ることができました。

旅立つ社会への不安も未来への期待に変え、胸を張ってこの学舎から旅立ちます」と答辞を述べました。

多くの来賓の皆さまに見守られ、卒業生一人一人が思い出と希望を胸に、新生活への第一歩を踏み出しました。

◆進路報告会が 行われました

2月7日(金)に、卒業を目前に控えた3年生の代表6人による「進路報告会」が行われました。

3年生からは、就職活動や進学受験を乗り越えた苦労や、進路を実現させるためにはどのようにしたらよいかなど貴重な話がありました。進路選択が間近に迫っている1、2年生は、真剣な表情で先輩の話に聞き入っていました。3年生からは「1日でも早く本気になって進路について考えること」「コミュニケーション能力を高めること」「自分から積極的に動いて先生に協力してもらうこと」など重要なアドバイスが送られました。



など重要なアドバイスが送られました。



◆デュアル実習成果発表会が 行われました

2月21日(金)、市文化センターで「デュアル実習成果発表会」が行われました。

大雪の影響で足下の悪い中、田村市の関係者の皆様、受入企業・施設の方々、県立学校の先生方など約80人の皆様にご参加くださいました。本年度からは同発表会を1、2年生全員が参観することとしたため、多くの生徒が、共に学ぶ友人らの熱心な発表に真剣な面持ちで耳を傾けていました。



筋内主任指導主事

当日は、市教育委員会学校教育課主任指導主事の筋内良一様から「働くということ」と題した講演をいただきました。生徒発表では、スライドを使ったプレゼンテーションや、実際に企業からお借りした作業着などを着用しての実習風景紹介や作文の朗読、「私にとってデュアル実習とは」の問いに対する答えの発表(一人一言)などが行われました。

本年度は、2、3年生33人が市内の企業・施設で実習させていただきました。21年度から始まった「田村市版デュアル実習」も来年度で6年目を迎えます。今後とも地元で貢献できる生徒の育成を目指し、キャリア教育に力を入れてまいります。関係各位におかれましては、今後ともご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



生徒発表



生徒発表



相撲

Natasha Horner
ナターシャ・ホーナーさん
(ニュージーランド
クライストチャーチ市出身)

海	を	越	え	て
英	語			
	指	導	助	手
ペ	ン	リ	レ	ー
			No.	10

世界プロレスリング連盟のハルク・ホーガンやザ・アンダーテイカー、ストーン・コールド・スティーヴ・オースチンのタッグチームと、ボディースラムが決め技のプロレスリングの発展期に、私は3人の兄がいる家庭の一番下の女の子として成長しました。欧米スタイルのレスリングのことをたくさん知っていた私は、兄たちと一緒にプロレスのテレビをよく見たものでした。その後で兄たちはいつも、互いにプロレスの技を掛け合っていました。しかし、それに比べて日本の相撲のことは、ほとんど知りませんでした。東京で本物の相撲を見ることができると知った時、私と夫と友人たちは言うまでもなく、すぐに飛びつきました。

土曜日に東京に行った私たちは、真っ先に「両国国技館」を確かめました。周りを歩いていた時、国技館に行く力士たちを見て驚きました。初めはびん付け油(まげに付ける油)の匂いに驚き、そしてベビー・パウダーのような匂いに驚きました。力士たちはまげをきちんと結び、大きくてゆるやかな外衣を着ていて巨体でした。背が高くて大きいのですが、その香気や細やかな立居振る舞いから、伝統・優美・尊厳・迫力を感じました。「これは欧米スタイルのレスリングとは違う」と私は思いました。



私たちは館内に入る前、相撲の伝統的な食べ物「ちゃんこ鍋」を試してみることにしました。私と友人たちは目の前で鍋の中の食べ物がぐつぐつ煮えるのを見ながら、素晴らしい時間を過ごしました。それから両国国技館の中に入り、建物の壁に掲げてある絵の写真を撮って座席に着きました。

私はラグビーやバスケットボールの試合など、他の競技を見にスタジアムに行ったことがありました。しかし、相撲はとても独特なスポーツで、両国国技館はまったく違っていました。他の学校で英語指導助手をしている友人は、つり屋根や土俵、塩などの意味を説明してくれました。土俵下の敷席に座っている人々を見たことも興味深かったことでした。なぜなら、敷席の畳の上でラグビーの試合を観戦することは、ニュージーランドではとても考えられないことだから!

本当にすてきだ、いかすと思ったのは、力士の取り組みでした。一つの短い取り組みにどのくらい力が入ったのか私には想像が付きません!相撲は力士が向き合い、こぶしを土俵につきます。それから立ち上がり土俵に戻り、頭上に塩を投げます。力士が気持ちを高揚させ、闘志をみなぎらせて自分の体を叩き始めるのを見たときは、とても魅力を感じました。観客が声援を送る白熱した取り組みに思わず釣り込まれました。その日のハイライトは、結びに見た白鵬の取り組みでした。白鵬はいつものようにその日も勝ちました。私と夫と友人たちは、本当に特別で独特なものを自分の目で確かに見たという気持ちになり、家に帰りました。

私たち夫婦がアメリカからニュージーランドに帰る時は、「伝統・品位・尊厳が深く浸透している日本という特別で類のない国で、積極的に経験したり関わったりしよう」と決意したことで得られる数々の『大冒険』を持ち帰ることになるでしょう。

